

令和6年度 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業

後期高齢者の保健事業について介護保険の地域支援事業や国民健康保険の保健事業と一体的に実施する。

■後期高齢者の状況（概略）

平均自立期間（要介護2以上）

・平均自立期間は男性79.1歳、女性83.5歳で、国(男性80.1、女性84.4)・県(男性80.2、女性84.4)よりも低い。

健診・歯科健診

・健診受診率25.5%で、県(25.8%)と同程度である。

医療

・（大分類別医療費上位）入院医療費：1位循環器系の疾患、2位筋骨格系及び結合組織の疾患、3位呼吸器系の疾患、外来医療費：1位循環器系の疾患、2位新生物〔腫瘍〕、3位筋骨格系及び結合組織の疾患。外来・入院とも循環器系の疾患が最も高く、県よりも高い。筋骨格も外来で13.9%、入院で12.0%と高く、外来については県より高い。

介護

- ・1件当たり介護給付費は69,418円と国(59,717円)・県(57,631円)と比較して高い。
- ・要介護者の有病状況では心臓病56.2%、筋骨格48.0%、精神28.9%の順に高い。

その他

・外来(健診受診有267,032円、受診無330,583円)・入院(健診受診有184,212円、受診無322,529円)ともに受診歴がない者の医療費が高くなっている。

・後期高齢者質問票「半年前に比べて固いものが食べにくい」33.2%で国27.2%、県25.9%より高い。「この1年間で転んだ」18.7%、「運動を週に1回以上」55.3%、「週に1回以上の外出」88.6%といずれも国・県より低い。

■健康課題

- ①医療状況より：生活習慣病が重症化してきている
- ②医療状況より：糖尿病性腎症重症化してきている
- ③後期高齢者質問票より：低栄養・口腔機能の低下している
- ④その他より：健康状態不明者対策が必要
- ⑤全体より：フレイルの予防が必要

■令和6年度実施状況

- ・高齢者に対する個別の支援（ハイリスクアプローチ）

	対象者数	保健指導 実施人数	保健指導 実施率	期間・方法等
低栄養	35	7	20.0%	3ヶ月間3回面談
重症化予防	119	42	35.3%	1回面談

(再掲)高血圧	(94)	(29)	(30.9%)	
高血糖	(25)	(13)	(52.0%)	
健康状態不明者対策	98	77	78.6%	訪問にて原則1回面談

(令和6年9月30日時点)

・通いの場等への積極的な関与等 (ポピュレーションアプローチ)

	回数	人数	実施機会
健康教育	115	1983	百歳体操、健診会場、健康になるスマホ講座、シルバークッキング等
健康相談	4	37	健康になるスマホ講座、共興地区あおぞら市等
フレイル状態者の把握	62	535	百歳体操、健康になるスマホ講座、等

(令和6年9月30日時点)

(参考) 令和5年度実績

・高齢者に対する個別的支援 (ハイリスクアプローチ)

	対象者/実施者(率)	アウトプット・アウトカム評価
糖尿病性腎症重症化予防	5人/3人(60%)	保健指導実施率60% 医療機関受診率100% 生活習慣改善率100%
その他の重症化予防(高血圧・高血糖等)	受診勧奨 269人/83人(右記) 保健指導 133人/65人(右記) 行動変容意欲 66人/64人(右記)	医療機関受診率30.9% 保健指導実施率48.9% 行動変容意欲有97.0%
健康状態不明	96人/84人(87.5%)	健診受診者9.5% (必要と判断した者のうち)サービス等につながった者100%

・通いの場等への積極的な関与等 (ポピュレーションアプローチ)

	回数/実施者(延)	アウトプット・アウトカム評価
健康教育・相談	168回/2,562人	教育相談回数168回 フレイル予防を理解できた者71.0%
(内訳) 健康になるスマホ講座	3回/56人	-
(内訳) シルバークッキング	1回/17人	-
フレイル状態者把握	55回/444人	質問票実施者数444人 フレイル予防に意欲的な者98.6%